

転移性甲状腺腫に放射性アイソトープ 治療を受けた一症例

発表者 脇川アヤ

R I 一同

患者紹介 氏名 ○山○子 50才 女性

病名 転移性甲状腺腫（頸椎腰椎骨盤）

治療経過

1回目 S45. 7.13服用～S45. 8. 1退室

2回目 S45.11.30〃～S45.12.17〃

3回目 S46. 5.10〃～S46. 5.22〃

病状経過

昭和45年4月左腰痛を訴へ整形外科受診。X線検査の結果、左腸骨腫瘍が発見され、甲状腺腫の疑いで外科へ紹介、同年6月外科にて腸骨試験切除施行、その結果良性腫瘍と診断、切除後10日目に甲状腺全摘出術が行われております。1回目の治療時は、トイレまでの歩行許可が与えられている。壁につたわり乍らようやく歩く程度でした。頸椎にはギプス使用しておりましたので、ベット上で起き上る時は介助が必要でした。腰椎ギプスも作成中です。服用後最初のシンチグラムは8月6日行いました。その結果、アイソトープが転移部に良く取り込まれていることが判明されております。治療開始頃は骨盤の転移による下半身の麻痺が心配されておりましたが、X線検査の結果、骨患部の修復が現れており治療の効果があつたわけです。

2回目の治療時は頸椎のギプスは相変わらず使用しておりましたが、歩行は健康体と区別出来ない程になり、患者自身も調子が良いと喜んでおります。

3回目の治療時は頸椎のギプスは殆ど使用せず、外見は健康そのもので行動も活発でした。

薬品名、量、放射性ヨウ化ナトリウム 100ma ※ ^{131}I -No.I 半減期 8.03日

看護の実際

目的 放射線源による組織内照射を行っている患者を少しでも安楽に不安の除去に重点をおく。

放射線障害と不安

放射線宿酔

① 食慾不振 服用後1～2日頃より現れてきますが副作用のためであつて日が経つにつれて治ることを説明し、病完食の他に新鮮な漬物をそへたりして3分の2程は摂取するように頑張

って頂く。全身倦怠感に対しては楽な体位をとらせてマッサージをしてやる。

- ㊤ 悪心、嘔吐…心身の安静をはかり部屋の換気を良くし気分転換のため暫くドアを明けて自然の空気を入れてやる。嘔吐の際はのう盆、ビニール等を用意して不安を抱かせないようにする。嘔吐後口腔内の清潔を保つため含嗽をさせる。
- ㊦ 発熱、発汗…安楽な位置をとらせ、氷枕氷のう使用し医師に報告する。発汗によるアイソトープの漏出で汚染を防ぐため室内の温度を爽快にし換気に気をつける。発汗多量の場合は熱い湯で清拭、又は乾いたタオルで拭き更衣する。
- ㊧ 下痢…副作用のために下痢になる場合もありますが、この場合は軟便で1日2回位でした。
- ㊨ 白血球減少…減少を防ぐため栄養の補給をはかりビタミン類の補給も大切です。点滴は5%フルクトン500cc、V_C1000mg、コバルトグリーンボール、イノシー、ネオラミン3^Bが行われました。

不安について…治療に対する恐怖のためアイソトープ治療が極めて安全なものであり、すでに治療が終って退院された方の話をして力づけ希望を持たせる。孤独感についてはテレビによる慰安なり、会話によって安心感を与へ、寄贈されました画や他にも美しい絵や写真を飾り少しでも気をまぎらすように心を配っています。又希望により日用品や間食等売店の用事については毎朝用件を聞き応じています。

汚染の拡大防止

- ㊩ 唾液により…食器類が汚染されます。アイソトープ専用石鹸(アイソトープクリーナ)を使用して流水で充分洗滌すれば、ほとんど除去されます。洗滌後も落ちない場合は減弱されるまで保管し危険がなくなってから下膳します。箸は使い捨てを利用し一定の場所へ保管します。チリ紙は専用の紙バケツ又は、ビニール袋に入れて他への汚染を防ぎます。
- ㊪ 尿尿…アイソトープ排出の程度、治療効果判定のため、24時間毎に尿量測定を行い、その一部を採尿してアイソトープの排泄量を測定します。便も同様に測定を行います。採尿採便の際、床その他に附着させないよう注意します。誤って落した場合は必ず測定器により危険の有無を調べ汚染されている場所は印をつけるか、ビニール濾紙を敷き汚染の拡大を防ぐ様心掛けます。アイソトープを含む洗滌液や患者の排泄物は専用の廃棄施設による二つの貯溜槽にためられ希釈によって安全濃度以下(GMカウンター測定1ml中100万分の1マイクロキューリ)になってから一般下水に流す。
- ㊫ 汗発多量のため衣服寝具の汚染についてはビニール濾紙を使用して汚染を最小限に防ぎます。

汚染物処理

- ㊬ 身体の清潔更衣…清拭はアイソトープがある程度減衰されてから行われます。これは被曝防

止のため止むを得ません。清拭に使用されました手拭等は汚染されますので必ず測定し、危険な場合は保管するか、廃棄します。更衣による衣類の取扱も同様な処理を行います。

- ㊤ 病室清掃…汚染の有無を検べて危険がないことを確かめて行います。汚染場所へは印をつけて立ち入らぬ様にする。又ビニール濾紙を敷いて減弱を待ちます。
- ㊦ 汚染物品…例えば衣類の場合直接洗濯に出せない理由を患者に説明して減衰されるまで保管します。危険のないことを確かめてから返却する。その期間は汚染の強弱により多少異なりますが、凡そ45日位かゝります。

放射線被曝の防護

放射線量率を知り防護の知識を効果的に応用して、距離、時間を考慮し、鉛防護板の遮へいを使用して処置を行います。

その他

- ㊧ アイソトープは直接皮膚につけないよう取扱時は必ずゴム手袋(ナイロン手袋)を使用する。
- ㊨ 治療室に入るときは所定のスリッパ、白衣を着用する。
- ㊩ 病室内で使用せるものを区域外に搬出する場合は必ず測定器で計測した上で危険がなければ許可する。

下記図の如く尿尿中排泄される量が多ければ体内残量は少くなるため治療期間は短くなりますが、治療効果は低くなります。その反対に排泄量が少ければ治療効果は高くなります。このグラフでは尿中のアイソトープ排泄量が急に少なくなっているため、体内残量が多くなり治療期間も長く効果は高いわけです。

